鹿児島県小中学校長研究大会　分科会記録

○　日　時　令和６年11月15日（金）12:40～14:00

○　分科会Ⅰ　小学校　第５分科会

「心の教育」

○　研究主題

「望ましい人間関係や規範意識を育てる心の教育」

○　協議題

「望ましい人間関係や規範意識を育てる心の教育
～社会性や規範意識を育成する生徒指導の推進～」

○　発表者　鹿屋市立上小原小学校　赤井　清人

○　司会者　鹿屋市立高隈小学校　　水本　賢一

○　記録者　鹿屋市立大黒小学校　　向吉　晴美

【質疑応答】

（質問：住吉小　川添　正和）

・　小中一貫教育の充実を図るために児童・生徒の姿をテーマに取り組んでいると思うが、中学３年生のゴール、小学６年生のゴールの姿をどのように設定しているのか教えほしい。また、管理職同士の話合いの場はあったのか教えてほしい。

※　以下、３件関連した質問が続く。

（質問：国分西小　中村　英次）

・　小中一貫の視点から学校経営のレベルで中学校と共通的なもの、系統的なものをどこまですり合わせたのか教えてほしい。

（質問：大浦小　上原　一宏）

・　以前勤務した小中一体型の実態から中学生が小学生の世話をすることで温かい雰囲気がつくられる反面、小学６年生としての役目を感じられなかった。ゴールをどこにもっているか教えてほしい。

（質問：桜丘西小　田中　省一）

・　乗り入れ授業について、算数は通年で取り組んでいるが、働き方改革の視点から中学校の先生の負担や苦情はなかったのか。納得して協力してもらえる手立てがあったのか教えてほしい。

（応答：上小原小　赤井　清人）

・　グランドデザインは小中それぞれ作成しているが小中一貫のものも作成している。例えば合同運動会は、中３を中心とした生徒会が自主自立的に行っている。本校は隣接型のため児童会活動も小６が中心になって自立して自分たちで考えて行っている。小学校のゴールとしてはできれば自分たちで解決できるようにしたいと考えている。このような小中のゴールの姿をグランドデザインに取り入れている。管理職同士の話合いの場として月１回小中一貫推進委員会が行われるので始まる前に校長同士で打合せをしている。乗り入れ授業について、中学校に小中連携加配が配置されている。今年は中学校の職員定数が減り、一人当たりの持ち時数に余裕がなくなった。そのため乗り入れ授業の回数も減り、６年の算数のみである。児童生徒の関係性について、小学生は天の川交流で中学生の頼もしい姿に触れて頑張ろうという気持ちになる。甘えることはない。

【グループ討議後の班ごとの発表】

（K班：馬根小　畑　隆宏）

・　親の都合で子供を休ませるとき校長としてどう対応するか話題になった。ある大規模校ではほぼ毎日欠席する児童が１０人程度いる。学年でチームとして対応し一人で抱え込ませないようにしている。校長は相談員へのつなぎ役となり、組織としてあたっているという事例があった。

（D班：亀山小　吉永　秀和）

・　保護者対応について話題になった。暴言、暴力、飛び出し等の改善例として特別支援的な対応、医療機関へつなぐこと、チームとしての関わり、コーディネーターを中心とした関わりがあげられた。対象者が複数名いたり、療育を受けていなかったりすると対応が難しい。発表の中で生徒指導４つの視点と自己決定の場について説明があったが具体的にどういう授業の姿が見られたのか教えてほしい。

（応答：上小原小　赤井　清人）

・　校内研修のテーマが「対話を楽しむ授業」である。研究授業や普段の授業もワンペーパーでまとめるようにしている。その際に子供の姿をメモするようにしている。子供が授業でのってきたときを認められた場面と捉え主体的に授業で活動する子供の姿を認めて担任に伝えている。そのことで劇的によくなったかどうかはわからないが、繰り返し行っている。

（まとめ：司会　高隈小　水本　賢一）

・　外部の関係機関と連携が必要なとき校長がつなぎ役になるとよい。

鹿児島県小中学校長研究大会　分科会記録

○　日　時　令和６年11月15日（金）14:15～15:55

○　分科会Ⅱ　小学校　第５分科会

「心の教育」

○　研究主題

「望ましい人間関係や規範意識を育てる心の教育」

○　協議題

「豊かな体験活動及び家庭や地域社会との連携を重視した道徳教育の推進」

○　発表者　西之表市立上西小学校　畑　真一郎

○　司会者　西之表市立現和小学校　横山　政文

○　記録者　西之表市立下西小学校　神田　圭

【質疑応答】

（質問：石谷小　有村　博文）

・　児童の自己有用感の高まりを感じることができたエピソードがあれば教えてほしい。

（応答：上西小　畑　真一郎）

・　特認校制度にある本校の実態として、様々な要因から自信をもてない児童がいる。そのため、教員が褒める場を意識的に設定している。

（質問：西原台小　西　康人）

・　校長として地域とのつながりを作るために留意している点は何か。

（関連質問：岩川小　上原　大樹）

・　特に離島では短期間での教員の入れ替わりもあるが、伝承する上での工夫はあるか。

（関連質問：馬根小　畑　隆宏）

・　地域人材リストはあるか。また、校長だけでなく、他教員の地域との関わりはどうか。

（応答：上西小　畑　真一郎）

・　体験活動の内容のほとんどは以前からあったものである。それを充実させる形で進めている。引継については、校長が教育課程で確実に申し送ることにしている。地域人材リストも作成し、活用している。

【グループ討議後の班ごとの発表】

（Ｅ班：住吉小　川添　正和）

・　地域素材を生かした取組の発表だったと思う。ただし、新興住宅地のある校区であれば、地域で伝承されている行事等が少なく、取り組むことの難しさもある。地域コミュニティを活用し、地域をいかに引き込むかが大切である。

・　桜峰小の取組の紹介。東京都の学校及び国際大学との交流を紹介（桜島大根の栽培及び販売について）。

（Ｊ班：伊集院小　渦尾　文輝）

・　地域の素材を、道徳の教材化までに至らないのが現状である。管理職を含め、職員が地域の行事をよく理解しないまま取り組んでいると感じる。地域の魅力を伝えるには、まず、管理職自らが地域の魅力を捉えていくことが大切である。

【指導助言】

県教育庁高校教育課学校教育生徒指導班指導主事

福元　浩子

＜上小原小の取組について＞

・　小中一貫、凡事徹底といった取組は、まさしく学習指導と生徒指導の一体化を目指す取組である。

＜上西小の取組について＞

・　児童の登校動機につながる「学校魅力」は、校長の姿が大切であると実感できる取組である。

＜発達指示的生徒指導について＞

・　鹿児島県の不登校の状況、いじめの認知件数の状況から、今後も児童生徒の自己有用感を育むことが重要である。（不登校者数：Ｒ元年度から小学校3.5倍、中学校２倍）（いじめの認知件数：一件でも多く丁寧に解決を。）

・　自己有用感を育むためには自己肯定感を高めることが大切である。そのためには、自分の目標より少し高めの目標を達成することである。その実感のためには、10歳までは大人が褒めること、10歳以上は友達に認めてもらうことが重要と言われている。特に、この「認める」ということが大切である。

・　これからの生徒指導は「発達指示的生徒指導」が大切である。生徒指導四つの視点「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安 心な風土の醸成」を大切にして、日頃の教育活動を進めていく。

・　川内北中学校の「魅力ある学校づくり」の取組もぜひ参考にしていただきたい。

・　いじめの四つの構造にある「観衆」をどう育成していくか、道徳教育の充実を図っていただきたい。

（記録　下西小　神田　圭）